

学位論文審査の結果の要旨

氏名	Phocengah Nyatanga (フォセナ・ニヤタンガ)
審査委員	主査 松田 敏信 ⑩ 副査 佐藤 俊夫 ⑩ 副査 石田 章 ⑩ 副査 糸原 義人 ⑩ 副査 安延 久美 ⑩
題目	Econometric Analysis of Cigarette Demand in Japan (日本のたばこ需要に関する計量経済分析)
審査結果の要旨 (2,000字以内)	
<p>本学位論文は、多様な形式のデータと計量分析モデルを駆使し、日本におけるたばこ需要を実証的に分析したもので、主要部分は7章からなる。</p> <p>まず第1章では、序論として本学位論文の背景、問題意識、および分析方法を概観している。</p> <p>つづく第2章では、日別時系列データによりたばこのエンゲル曲線を推定している。日本のたばこ価格は、たばこ税増税にともなう価格改訂以外に変動がないため、通常の需要関数による分析は適切でない。そこで、対数2次型のエンゲル曲線により、たばこ税増税のよる値上げが需要にいかなる影響を与えたかを分析している。その結果、2度のたばこ税増税は、長期的にみると需要をわずかに減少させる効果があることを明らかにしている。</p> <p>第3章では、月別・都市別に集計された疑似パネルデータに対して、複雑な消費支出の変動を把握するために、ワーキング・モデルを対数支出の2次関数に拡張したエンゲル曲線を推定している。さらに時系列方向のダイナミックな変動をとらえるために誤差修正モデルとして定式化し、また地域差をとらえるために固定効果モデルとして推定している。分析の結果、たばこの需要は消費支出の変動に対して極めて非弾力的で、負のトレンドが観察される。また、たばこ税増税直前の駆け込み需要による消費増加効果に対して、増税直後の消費減少効果は比較的小さい。さらに、いくつかの都市間には顕著な地域差が存在することを明らかにしている。</p>	

第4章では、主要7都市について、月別時系列データを対数線形型需要関数の誤差修正モデルにより推定し、推定結果を都市間で比較している。実質価格を用いることにより、日本のたばこについて需要関数の推定を試みている点が特徴的である。その結果、価格弾力性、支出弾力性、たばこ税増税効果などには、都市間で顕著な差が存在することを明らかにしている。

第5章では、第4章の分析をさらに深めるため、主要都市におけるたばこ需要について空間的な類似性がみられるか、すなわち都市間の距離が近ければたばこ消費のパターンに類似性がみられるか、という仮説を統計データの分析により検証している。まず、需要と支出の他に人口統計学的変数や政策変数などを含む49都市の月別時系列データに対して、単位根検定と共和分検定を実行している。次に、両検定結果に基づき、誤差修正モデルによる各都市のエンゲル曲線を推定している。そして、エンゲル曲線の推定結果に基づき、様々なパラメータの組み合わせによるクラスター分析を行い都市の分類を試みた結果、わが国のたばこ需要に空間的な類似性はほとんどみられないことを示している。

第6章では、単身世帯におけるたばこ需要を、二人以上世帯との比較の視点から分析している。四半期別・地域別に集計された疑似パネルデータに対して、2次に拡張したワーキング型エンゲル曲線の誤差修正モデルを推定した結果、先行研究の結果と同様、たばこ需要の支出変化に対する反応はわずかである。一方、たばこ税増税は二人以上世帯には消費減少効果がみられるが、単身世帯には有意な消費減少効果がなかったことを明らかにしている。

最後に第7章では、本研究全体のまとめと結論の提示を行っている。

以上述べてきたように、フォセナ・ニヤタンガ氏の学位論文は、日本のたばこ需要に関する5編の独立した論文からなる本論(第2~6章)、および序論(第1章)と結論(第7章)より成り立っている。本論を構成する第2~5章の基礎となった論文は、すでに松田敏信との共著として以下の査読つき学術誌に公刊あるいは近刊となっており、いずれも学術的に十分なレベルに達していると評価することができる。

第2章: Japanese Journal of Farm Management 48: 155-160, 2010.9

第3章: Journal of Rural Problem 46: 126-130, 2010.6

第4章: Japanese Journal of Farm Management 49, 2011.9 (印刷中)

第5章: Journal of the Japanese Society of Agricultural Technology Management 18, 2011.10 (印刷中)

また、第6章の基礎となった論文は現在、国際学術誌において審査中である。

もっとも本学位論文が現状において完全というわけではなく、一部その厳密性に不十分な点も残されている。しかし、それらの点は本学位論文の基本的な価値を損なうものではなく、この方面での同氏の今後の精進に期待することとした。以上のことから、われわれ審査委員一同はフォセナ・ニヤタンガ氏の学位論文「Econometric Analysis of Cigarette Demand in Japan (日本のたばこ需要に関する計量経済分析)」が博士(農学)の学位に十分に値すると判断する。